

平成 27 年度第 5 回
杵島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 28 年 3 月 29 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 （第 1 次）第 4 回新高校設置準備委員会報告まとめ 1
資料 2	新高校の教育内容に係る検討事項について 5
資料 3	新学科の教育課程（試案）について 7
資料 4	校舎制に関する検討課題について 10
資料 5	新高校の校務分掌・各種委員会について 12
資料 6	杵島地区新高校設置準備委員会検討スケジュールについて 16
資料 7	県外高校視察報告について 18
資料 8	新高校設置準備委員会設置要領 25
資料 9	杵島地区新高校設置に向けた検討体制 27
資料 10	杵島地区新高校設置準備委員会委員構成 28

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）
第4回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 12月25日(金) 15時～16時30分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成28年 1月 7日(木) 9時55分～11時30分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 9人 県教育委員会関係委員 6人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成28年 1月 7日(木) 15時～16時30分 巖木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 8人
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成28年 1月12日(火) 15時05分～16時35分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成28年 1月15日(金) 10時～11時45分 伊万里商業高校 会議室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

地区	主な意見等
鹿島地区	<p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科の5学級を維持することはできないのか。 ・ 高校入試の時に、異なる大学科で第2志望まで志願することはできるのか。 ・ 平成30年度の新高校の募集定員280人を40人×7学級ではなく、35人×8学級の少人数学級編制にできないか。 ・ 生徒指導上の課題がある場合などは少人数学級編制の効果があるようだが、進学校の場合は40人編制で競争させた方が効果が高いという話を聞く。 <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の名称は、「赤門学舎」と「大手門学舎」が個性的でいい。 ・ 1年次は現在の鹿島実業高校の校舎、2,3年次は食品調理科以外は現在の鹿島高校の校舎に移るようにすると、学校としての一体感も醸成しやすいのではないか。 ・ 校舎制は「当面」とあるが、最終的には1つの校舎になるのか。 <p>新高校の教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事や部活動等、学校活動のレベルを高めて、新高校で学ぶプライドを醸成できるよう、作業部会で具体的に検討してほしい。

地区	主な意見等
嬉野地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認</p> <p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嬉野高校から専門学科への改編が提案されたが、就職などを考えると有利なのではないかと思うので賛成である。 ・ 選択科目の多い総合学科を小規模で維持することは難しいと考え、入学してくる生徒に一番良い教育を提供したい思いから、専門学科への改編を提案している。 ・ 工業科の小学科の定員を、少人数にする案が出ているが、職員数は変わらないと負担が大きくなるのではないか。 ・ 少人数の学科編制の検討を含めて、事務局で現実的かどうか検討してもらい、次回の設置準備委員会で報告してほしい。 <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎制は無駄が多いと思える。校舎制という小規模の中で、社会人として必要なコミュニケーション能力等を育成できるのか。 ・ 部活動は新高校の特色づくりに果たす役割が大きく、活動場所や移動手段等をはっきりと示す必要がある。 ・ 校舎制は半永久的か。できるだけ早く1つの校地にすることを希望する。 ・ 校舎制にして、本校と分校に分けるということはないのか。
唐津地区	<p>校時表について 事務局案のとおり承認</p> <p>教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校に入学してくる生徒の学力はこれまで以上に差があると思われるので、カリキュラムにも幅を持たせる必要がある。 <p>地域連携検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験学習のための作業所等を探す中では、市民センターも協力しなければならないと思っている。分校跡地なども活用する必要があるれば、相談に応じる。 <p>教育相談、生徒指導体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の発達障害のある子どもについては、通級指導教室でのソーシャルトレーニングが効果を上げている。新高校ではそういう教室との情報共有を図ってほしい。 ・ 教職員の資質向上として行われる予定の定期的な外部専門家等による校内研修会については、特別支援教育の事業も活用できる。 <p>施設、設備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンや電子黒板未設置教室への電子黒板の設置などについて、考慮をお願いしたい。

地区	主な意見等
	<p>教職員等の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太良高校のように学習支援員の配置が必要だと思う。
杵島地区	<p>新高校の学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年度の募集学級数 5 学級の内訳は事務局案のとおり、普通科 3 学級、商業科 2 学級でよいか。 <p>事務局案のとおり承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科の文理特進クラスは、文系の生徒と理系の生徒が 1 つのクラスにいるわけだから、授業は 2 つに分けることになり、教職員数が足りなくなるのではないか。対応として、文理特進クラスを 2 クラスにしてはどうか。 ・ 商業科の会計コースでは英語を重視するという説明があったが、普通科の総合進学クラスと会計コースで英語を一緒にするという事は考えられないか。 ・ 総合選択制が可能になれば、普通科の生徒で経済学部や商学部に進学したい生徒は商業校舎で学ぶなど他にない特色を与えられると思う。 <p>校舎制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の移動には経費がかかるので、その試算をする必要がある。県がどのくらい負担できるかで、バス移動を伴う部活動の合同練習の回数なども決まってくるのではないか。 ・ 校舎制はデメリットが大きく、生徒にも先生にも迷惑がかかる。早く一緒に校地にした方が良い。
伊万里地区	<p>産業界からの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経理とパソコンを扱える能力は企業でも、農業経営にも必要である。 ・ 森林工学科の「林業」については、佐賀県の中でどう構築するのが問題である。 ・ 地場産業の育成にさらに取り組むためには、昔のように、農業は農業、商業は商業ということでは競争に負けるのではないか。農業科と商業科が一緒になって、という思いがある。 ・ 教育環境をしっかりと整えて、希望のある学校になるようにしてほしい。 ・ 地方創生が叫ばれる中、伊万里の偉人とか歴史とかも勉強させて、伊万里に残って仕事をしてくれる人が多くなるような教育をしてほしい。それには、企業誘致も必要なので行政にも力を出してほしい。 <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数学級編制を実施している高校もある中で、新高校 200 人の定員を、農業科 100 人、商業科 100 人とできないか。 ・ 例えば、募集は農業科と商業科をまとめて行い 1 年次に共通科目を履修させ、2 年次以降に専門科目を集中させれば必要な単位数は修得できると思う

地区	主な意見等
	<p>が、それは可能か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 融合学科にはいろいろな形があるということだが、新しいコースの模索はできるのか。 <p>校地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメントの結果では、伊万里商業高校が適地だという意見が多く、以前の計画でも伊万里商業高校が適地だとされていた。 ・ 伊万里商業高校がいい環境だということについて異論はないが、農業関係では実習があり、実習をどうするのかについては問題がある。 ・ 校舎制について、他県の事例はわかったが、どのくらいの期間やっているのか。

資料2 新高校の教育内容に係る検討事項について

第4回設置準備委員会での意見

文理特進クラスは授業を展開することになり、教職員数が足りなくなるのではないか。それならば、文理特進クラスを2クラス（文系1、理系1）にしてはどうか。

⇒

- 現行でも多くの授業を展開で行っており、文理合同クラスを設置することで格段に展開授業の数が増えるわけではない。

《シミュレーション結果》

現行(白石高校と杵島商業高校の合計)

教科		国語	地歴公	数学	理科	体育	芸術	家庭	英語	商業	合計	配当見込数	見込数との差	非常勤
H27 実績	職員数	7	6	9	5	7	3	2	9	13	61	56	-5 (加配)	4 32時間
	授業時間(合計)	108	92	129	76	105	44	27	140	200	921			
	平均持ち時間数	15.4	15.3	14.3	15.2	15.0	14.7	13.5	15.6	15.4	15.1			



新高校(普通科+商業科)

【現在の授業展開を維持】

教科		国語	地歴公	数学	理科	体育	芸術	家庭	英語	商業	合計	配当見込数	見込数との差
H32 完成	職員数	5	5	6	4	6	2	2	6	9	45	36	-9
	授業時間(合計)	75	78	101	58	79	37	22	101	143	694		
	平均持ち時間数	15.0	15.6	16.8	14.5	13.2	18.5	11.0	16.8	15.9	15.4		

【普通科に文理コース・看護コースを設置】

教科		国語	地歴公	数学	理科	体育	芸術	家庭	英語	商業	合計	配当見込数	見込数との差
H32 完成	職員数	5	5	5	5	6	2	2	6	9	45	36	-9
	授業時間(合計)	77	81	86	74	79	31	22	96	145	691		
	平均持ち時間数	15.4	16.2	17.2	14.8	13.2	15.5	11.0	16.0	16.1	15.4		

※「見込数との差」には校舎制に伴って、教頭1人、養護教諭1人を含む。

- 文理コース・看護コースのシミュレーションでは、最大限必要な教諭数を配置しており、コースやカリキュラムの見直しによって、必要教諭数を絞り込むことも可能である。
- これまでも文理各1つずつグレードクラスを設置してきたが、同じクラスの中でも学力差や意識の差が大きく、授業・学級経営ともに指導が難しいという面があった。文理特進クラスを2クラス設置することは現行と何ら変わるものではない。
- 今後定員が減る中で、国公立大学や難関私立大学進学者を一定数確保するためには、進学に対する高い意識と一定以上の能力を持った精鋭を、精選した教材で鍛える方が効率的であり、新高校普通科の状況に適していると思われる。

普通科の総合進学クラスと会計コースで英語を一緒にするという事は考えられないか。

- 普通科と商業科の英語学習の目的の違いによって、英語教育のやり方も異なる部分が出てくるとされる。今後、英語教育について研究を重ねる中で検討していくことが必要だが、長期休業中に語学検定試験(英検やTOEFL等)の合同学習会を行う等の取組は考えられる。

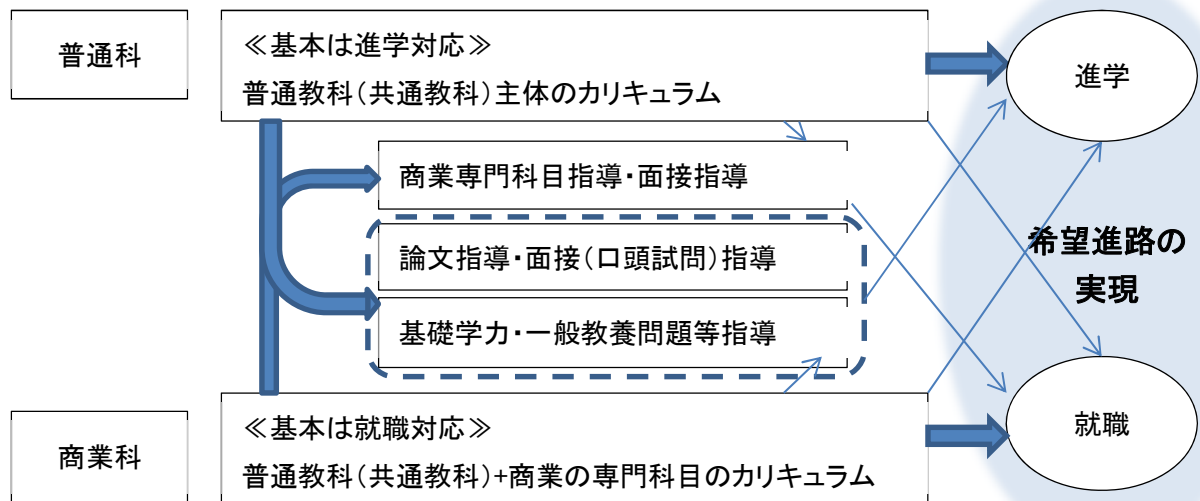
商業科の生徒が大学進学を希望した時、普通科で受け入れたり、普通科の生徒が就職の勉強をしようと思った時、商業科で受け入れたりできると、新高校の特色になると思う。

高校では、普通科、専門学科それぞれに、3年間を見通して体系的に学んでいくことで、その学科の目標・目的を果たすよう計画されている。さらに、高校で学習する内容はいずれも難易度が高いことを考えると、高校進学時に選択した学科で3年間学習することが望ましい。したがって、高校の在り方として、転科することを前提として受け入れることは難しい。

また、転科については、専門科目の履修・習得（3年間で25単位以上）や、それに伴う単位の互換性の問題がある。

従来から、普通科の就職希望者、商業科の進学希望者それぞれに対応はしてきた。今後、新高校となるにあたって、さらに効率的な指導の仕組みを検討する。

《指導体制イメージ図》



総合選択制が可能になれば、普通科の生徒で経済学部や商学部に進学したい生徒は商業校舎で学ぶなど他にない特色を与えられると思う。

総合選択制をとることによって、生徒の移動等の問題が生じる。

普通科の大学進学希望者が商業校舎で学ぶ場合、数学は簿記で対応するとして、他の教科への対応はどのようにするのか。

一部の推薦入試を除くと、一般的に国公立大学へ進学する場合は、どの学部に進学する場合でも必ずセンター試験を受験しなければならない、基本的には5教科の総合的な学力が必要である。そのためには、普通科の教員が多く、教科指導をきめ細かに行える普通校舎での学習が望ましい。

ただ、二次試験対策の中で、経済に関する小論文指導や口頭試問を含む面接指導などについて、商業科の教員が指導に加わる体制を整えることはメリットがある。

同様に、進学を希望する商業科の生徒に、きめ細かな進学情報を提供し、受験のノウハウを教員間で共有しながら、商業科と普通科の教員が協働して指導することにもメリットがある。

新 高 校 商 業 系 学 科 教 育 課 程 (案)

1年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	国語総合	現代社会	数学I	体育	保健	美術	コミュニケーション 英語I	ビジネス基礎	簿記	情報処理	L	H	R																	

2年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	国語総合	日本史A	数学II	体育	保健	科学と 人間生活	コミュニケーション 英語II	家庭総合	簿記 電子商取引	マナーと スキル	原価計算	マーケティング	ビジネス情報	総合	L	H	R													

…会計コース
…ビジネススキルコース

3年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	現代文A	世界史A	数学A	体育	生物基礎	コミュニケーション 英語II	家庭総合	課題研究	財務会計I 広告と販売促進	経済活動と法 ビジネス実務	ビジネス 経済 第二外国語	国語表現 総合実践	L	H	R															

…会計コース
…ビジネススキルコース

※選択科目

普通教科

専門教科

表中の数字は、1週間あたりの授業数を表します。選択科目では、自分で学びたい方を選べます。

新高校 情報系学科 教育課程 (案)

1年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	国語総合	現代社会	数学Ⅰ	体育	保健	美術	コミュニケーション 英語Ⅰ	ビジネス基礎	簿記	情報処理	L	H	R																	

2年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	国語総合	日本史A	数学Ⅱ	体育	保健	科学と 人間生活	コミュニケー ション 英語Ⅱ	家庭総合	プログラミング マーケティング	プログラミング 電子商取引	簿記	総合	L	H	R															

…プログラミングマーカーコース
…マルチメディアコース

3年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	現代文A	世界史A	数学A	体育	生物基礎	コミュニケーション 英語Ⅱ	家庭総合	課題研究	広告と 販売促進	プログラミング デザイン表現	ビジネス情報管理 総合実践	国語表現 / 総合実践	L	H	R															

…プログラミングマーカーコース
…マルチメディアコース

※選択科目

普通教科

専門教科

表中の数字は、1週間あたりの授業数を表します。選択科目では、自分で学びたい方を選べます。

資料4 校舎制に関する検討課題について

白石高校と杵島商業高校との距離約 5 km

1 行事について

- (1) 合同実施が望ましい行事
- (2) 行事の際の移動

2 部活動について

- (1) 部活動種目の見直し 新高校校内委員会で検討
- (2) 活動場所の割り振り 移動生徒数をシミュレーション
- (3) 部活動の際の移動

3 職員配置・会議の在り方及び職員の移動について

- (1) 管理職の配置
- (2) 校務分掌主任の配置
- (3) 会議の在り方
- (4) 職員の移動

4 校時について

5 その他

校舎制に関する検討課題については、校内委員会、作業部会、その他委員会で方向性を示したものを、設置準備委員会で検討する。

《参考：校舎制に伴うバス移動について》

1 合同行事

使用車両	単価（円）	備考（使用例）	代金（円）
大型バス （最大53名）	60,000	入学式、卒業式（生徒2台、保護者2台） 杵島商業高校 - 白石高校間を1往復	264,000 （税10%含む）

2 部活動（他県事例）

高校名	校舎間距離	部活動時の生徒移動手段	移動を要する合同行事・授業及び移動手段
岩ヶ崎高校（宮城県） 岩ヶ崎校舎 鶯沢校舎	6.7km	・各自で移動。 ・バイク通学者が多いので、バイクあるいは路線バス（中高生は市内100円）を利用。	入学式、卒業式、文化祭、球技大会 〈各自移動〉
塩釜高校（宮城県） 西キャンパス 東キャンパス	0.6km	・各自で移動。 （起伏が大きく、段差も多いため、自転車での移動は不可能。近距離にある割には移動に時間がかかる）	文化祭、体育祭、始・終業式、進路講演会等 〈各自移動〉
飛騨高山高校（岐阜県） 岡本校舎 山田校舎	2.1km	・各自で移動。	入学式、卒業式、統一生徒会、学習成果発表会、総合選択制授業（週2日） 〈卒業式のみバス利用〉
和歌山北高校（和歌山県） 北校舎 西校舎	7.2km	・バス利用（朝夕各4台） ・路線バスを契約、経費は年間約2,000万円（県費）。	新入生歓迎会、観劇会、体育祭（校外施設で実施） 授業（週2回） 〈校外での行事は現地集合、授業はバス1台利用〉
海南高校（和歌山県） 海南校舎 大成校舎	8.1km	・各自で移動。	生徒会交流（年1～2回） 〈職員が引率〉
串本古座高校（和歌山県） 串本校舎 古座校舎	9.2km	・シャトルバス（20数名乗り）を毎日3往復運行。 ・経費は年間1,200万程度（県費）。	芸術鑑賞会
京都八幡高校（京都府） 北キャンパス 南キャンパス	2.9km	・各自で移動。	入学式、卒業式、体育祭、文化祭、マラソン大会 〈各自移動〉
井原高校（岡山県） 北校地 南校地	0.7km	・各自で移動。	入学式、卒業式、始・終業式、体育祭、講演会 〈各自移動〉
真庭高校（岡山県） 落合校地 久世校地	6.4km	・週2日スクールバスを運行（それ以外は各校地で活動）。 ・経費は年間72万（県費）。	入学式、卒業式、芸術鑑賞会、学年交流行事（年1回） 〈入学式、卒業式はバス利用〉
新見高校（岡山県） 南校地 北校地	0.7km	・各自で移動。	入学式、卒業式、1学期始業式、3学期終業式、宿泊研修、修学旅行、体育祭、芸術鑑賞会、ウォーキング大会 〈各自移動〉
阿蘇中央高校（熊本県） 阿蘇キャンパス 阿蘇清峰キャンパス	3.1km	・各自で移動。	入学式、卒業式、始・終業式、体育祭、文化祭、クラスマッチ、農業体験、学年集会、授業 〈授業は中型バス、行事は大型バスで移動。経費は年間1,400万円（県費）。〉
大津緑洋高校（山口県） 大津キャンパス 日置キャンパス 水産キャンパス	大津－日置 9.4km 大津－水産 1.6km 日置－水産 10.2km	・バス2台を利用 ・経費は年間約4,000万円（県費）。	学習成果発表会、農業体験、航海体験、野球部1回戦全員応援

資料5 新高校の校務分掌・各種委員会について

1. 校務分掌

現状

白石高等学校	杵島商業高等学校
<p>教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動 ・ 企画・庶務 ・ カリキュラム・時間割 ・ 日報・板書 ・ 教科書・副教材・消耗品 ・ 学校行事 ・ 奨学金・保護者納入金 ・ 出欠統計・授業時間調査・成績処理 ・ PTA・購買部 ・ ICT・SEI-Net 	<p>教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事・日課 ・ 教科書・副教材・一括徴収 ・ 奨学金 ・ 時間割・教育課程 ・ 特別活動 ・ 研修全般 ・ 人権・同和教育 ・ 読書指導 ・ 視聴覚・マルチメディア ・ 各種調査・小テスト集計 ・ 成績処理・出欠統計 ・ 表彰・印刷 ・ SEI-Net ・ PTA
<p>生徒指導部</p> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活指導 ・ 交通指導 ・ 防災・防犯 ・ 遺失物・諸届 <p>【生徒会指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭 ・ 部活動 ・ 学校行事・ボランティア ・ 会計 	<p>生徒指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・渉外 ・ 交通安全指導（自転車、自動車学校） ・ 風紀関係指導 ・ 拾得・紛失物 ・ アルバイト関係 ・ 制服等販売 <hr/> <p>生徒会指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会役員指導 ・ 体育部・文化部 ・ JRC ・ 聖陵祭（体育祭・文化祭） ・ 会計 ・ 活動成績 ・ 家庭クラブ ・ ひまわりプロジェクト

白石高等学校	杵島商業高等学校
<p>進路指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・運営 ・ 資料・統計 ・ 特課・土曜講座・模試 ・ 生徒閲覧室・資料配布・掲示 ・ 小論文指導 ・ 会計・庶務・記録 ・ 就職関係・既卒者就職相談 ・ 学力向上対策・シラバス ・ キャリア教育事業 	<p>進路指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・立案 ・ 就職指導 ・ 進学指導 ・ 公務員指導 ・ 特課計画・指導 ・ 調査・統計 ・ 広報 ・ 進路システム管理 ・ 成績処理 ・ 各種模試 ・ 庶務・会計 ・ 既卒者就職相談
<p>保健指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・運営 ・ 安全点検・美化清掃・環境衛生 ・ 健康管理・健康相談 ・ 日本スポーツ振興センター ・ 生徒保健委員会 ・ 教育相談 ・ 特別支援教育 ・ 食育指導 	<p>保健指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・渉外・健康 ・ 安全教育 ・ 環境・美化 ・ 日本スポーツ振興センター ・ 調査・統計 ・ 教育相談 ・ 特別支援 ・ 食育推進
<p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・運営 ・ 蔵書管理・購入 ・ 広報 ・ 読書指導 ・ 資料収集 ・ 図書館利用指導 ・ 視聴覚教室 ・ コラムサービス活用 ・ 事務一般 	
<p>総務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価 ・ 研修 ・ 人権・同和教育 ・ 広報・卒業アルバム ・ ホームページ管理 	<p>情報管理部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理・校内 LAN ・ 学校ホームページ・パンフレット ・ ICT 利活用推進 ・ 記録（写真撮影）



校務分掌の見直しと業務の割り振りの検討

(1) 再編成が必要と思われる校務分掌

例) 分掌：総務部、情報管理部、図書部

業務内容によって1～2の分掌に再編成する。

業務：ICT利活用推進、各種研修、ホームページ管理、読書指導、
視聴覚・マルチメディア等

(2) 新たに設置することが望ましい校務分掌

例) 分掌：企画部（仮称）等

業務：校舎制に係る諸業務、新高校の教育内容の検討、

新高校への理解を促すための、中学生・中学校関係者に対する広報活動
将来的に校地が1つになった場合は、教務部に統合することも考えられる。

分掌横断的な取組みの研究

例) キャリア教育事業（普通科）

地域での体験的学習（商業科）等

2. 各種委員会

現状

白石高等学校	委員数	杵島商業高等学校	委員数
運営委員会	13人	運営委員会	14人
学力向上対策委員会	11人	学校活性化委員会	9人
特別活動委員会	7人	カリキュラム委員会	13人
カリキュラム委員会	11人	学力向上対策委員会	12人
人権・同和教育推進委員会	5人	学校保健安全委員会（校医除く）	14人
進路指導委員会	15人	生徒指導委員会	9人
生徒指導委員会	7人	クラブ活動振興委員会	6人
図書委員会	9人	HR 活動委員会	8人
学校保健安全委員会 （食育推進委員会）	15人	図書館運営委員会 （朝読書委員会 兼任）	11人
購買委員会	4人	人権・同和教育委員会	8人
施設委員会	6人	総合的な学習の時間委員会	9人
転入考査委員会	7人	教務規定委員会	7人
教育相談委員会 （特別支援教育委員会）	9人	情報管理委員会（学校教育情報化推進 委員会を統合）	11人
小論文委員会 （推薦・AO 対策委員会）	8人	教育相談委員会 特別支援教育委員会	8人
衛生委員会	9人	拡大教育相談委員会	8人
単位認定審査会	13人	学校評価委員会	11人
部活動後援会	6人	衛生委員会	8人
総合的な学習の時間推進委員会	6人	修学旅行業者選定委員会	9人
キャリア教育サポート委員会	8人	副教材業者選定委員会	13人
ICT 利活用推進委員会	6人	アルバム業者選定委員会	10人
いじめ・体罰等対策委員会	9人	佐賀県立杵島商業高等学校競争入札 資格委員会	3人
新高校準備委員会	12人	新高校校内検討委員会	8人
100周年準備委員会	12人	国際交流委員会	5人
修学旅行検討委員会	6人	いじめ・体罰等対策委員会	5人

委員数に学校長は含まない。

網掛けは両校に共通する委員会。

校内委員会、作業部会等で方向性を示したものを、設置準備委員会で検討する。

資料6 杵島地区新高校設置準備委員会検討スケジュールについて

1 平成 27 年度の検討結果まとめ及び平成 28 年度以降の検討スケジュール（案）

回	時期	主な検討項目
第 1 回	H27 年 5 月 26 日（火） 【済】	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱 ・新実施計画の概要 ・県立高校再編整備計画（杵島地区） ・新高校設置に向けての検討事項及び検討スケジュール ・めざす学校像（現状を踏まえた意見交換） など
第 2 回	H27 年 7 月 27 日（月） 【済】	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像 ・新高校の学科構成
第 3 回	H27 年 10 月 23 日（金） 【済】	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像【事務局案で承認】 ・新高校の学科構成 ・校舎制
第 4 回	H28 年 1 月 12 日（火） 【済】	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校の学科構成【事務局案で承認】 ・新学科での取組（教育内容） ・校舎制
第 5 回	H28 年 3 月 29 日（火） < 予定 >	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容 ・校舎制 ・今後のスケジュールについて
平成 28 年度		
第 6 回	H28 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度の検討結果報告、平成 28 年度以降のスケジュール ・教育内容（教育課程、校時、校訓・校是、部活動等） ・新高校名（検討方法について） ・新校章・新校歌・新制服（検討方法について）
第 7 回	H28 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容（教育課程、校時、校訓・校是、部活動、学校行事、校務分掌、各種委員会等） ・校舎制（具体的な対応計画報告） ・新高校名（進捗状況報告） ・新校章・新校歌・新制服（進捗状況報告）
第 8 回	H28 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容（学校行事、選抜方法、生徒会活動、進路指導等） ・校舎制（具体的な対応計画報告） ・新高校名（進捗状況報告） ・新校章・新校歌・新制服（進捗状況報告）

第9回	H28年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・新高校再編整備実施計画（原案）検討 ・教育内容（施設・設備、未消化分） ・新高校名（校名案について） ・新校章・新校歌・新制服（進捗状況報告）
	H29年2月	・2月議会（条例改正案）
	H29年3月	・「杵島地区新高校再編整備実施計画」策定
平成29年度	H29年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動、施設・設備の整備 <p>進捗状況報告のための設置準備委員会を開校までに1～2回実施</p>
平成30年度	H30年4月	杵島地区新高校開校

2 検討時期（期限）と主体

検討課題・項目	検討時期（期限）	検討の主体	備考
教育課程、コース設定（素案）	～H28.4	校内検討委員会	H29.6 学校教育課提出
校訓・校是	～H28.10	校内検討委員会	
施設・設備の整備計画			
校時、行事、分掌、委員会	～H28.10	校内検討委員会	
選抜方法	～H28.10	校内検討委員会	
部活動	～H28.10	校内検討委員会	
校名	～H28.10	検討方法を第6回設置準備委員会で決定	H29年2月議会に条例改正案提出
校章、校歌、制服	～H29.3	検討方法を第7回設置準備委員会で決定	
広報計画	～H29.3	作業部会	

それぞれの検討結果及び進捗状況については、平成28年度の設置準備委員会において逐次報告することとする。

教育課程については、配置職員数の算定資料となるため、平成28年度初頭頃までに素案（暫定案）を作成し、その後、継続検討とする。

校内検討委員会は両校の代表者で構成する。検討する項目によって複数の校内検討委員会を設定することもできる。校内検討委員会での検討結果は作業部会に報告し、さらに検討を行う。

必要となる校内検討委員会の例

教務分科会、進路指導分科会、生徒指導分科会、事務分科会など

資料7 県外高校視察報告について

富山県立富山商業高等学校（商業科の取り組み）

1 日程等

日時	平成 28 年 2 月 25 日（木）		15:00	～	16:30
訪問者	佐賀県立白石高等学校		指導教諭	本村 邦彦	
	（ 同 ）		教諭	岩谷 祥史	
	佐賀県立杵島商業高等学校		教諭	中村 桂子	
	（ 同 ）		教諭	村上亜嫁子	
	（ 同 ）		主事	永淵早貴子	
	教育政策課県立高校再編整備推進室		企画主査	椋島 秀樹	
応対者	富山県立富山商業高等学校		校長	麦谷 直人 氏	
	（ 同 ）		教頭	本波 弘一 氏	
	（ 同 ）		商業科主任	辻岡 徹 氏	
	（ 同 ）		企画部長	安田 隆 氏	
			他 1 名（英語科主任）		

2 学校概要

学科構成は、流通経済科 2 学級、国際経済科 1 学級、会計科 2 学級、情報処理科 2 学級の 1 学年 7 学級規模。

各小学科には特にコースは設定されておらず、選択教科で対応。

全校生徒は 827 人（H27.5.1 現在）

	流通経済科			国際経済科			会計科			情報処理科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	40	40	80	15	25	40	26	54	80	36	44	80	117	163	280
2 年	34	46	80	13	27	40	22	57	79	30	49	79	99	179	278
3 年	45	33	78	14	25	39	26	50	76	37	39	76	122	147	269
合計	119	119	238	42	77	119	74	161	235	103	132	235	338	489	827

卒業後の進路は、4 年制大学進学、短大・専門学校進学、就職がそれぞれ約 3 分の 1 ずつ。就職者の約半数は製造業。

7 学級規模であるので、職員定数上の問題は特にない。

職員配置は、校長 1、教頭 2、教諭 51（兼務 1、再任用 1 含む）、養護教諭 1、実習教諭 1、事務職員 5、臨任講師 1、臨任実習助手 3、非常勤講師 8。

全員部活制で、運動部・文化部ともに非常に盛ん。（教頭先生曰く、部活動が主体で、様々な活動の基盤は部活である。）

3 取材等概要

学科について

- ・ 各学科、推薦入試で約半数を取る（推薦入試は、作文、面接、調査書、推薦書）。
- ・ 一般入試の際は第3希望まで記入できる。
- ・ 1年次はどの学科もほぼ同じ内容を学習する。

《流通経済科》

- ・ 2年次よりA・B2コースに分かれる。
- ・ BコースはAコースより体育の単位数が多い（ほとんどの生徒がBコースを希望するため、調整が必要）。

《国際経済科》

- ・ 「とやまの高校グローバル人材育成促進事業」(H24～26)の取り組みを継続して実施（別冊子参照）。
- ・ 英語の単位数が、他学科と比較して、1～2年次は1単位、3年次は2単位多い（選択科目を含めればさらに多くなる）。
- ・ 海外研修、イングリッシュキャンプ、英語スピーチコンテスト、また全商英語検定、実用英語技能検定の取得等に精力的に取り組んでいる。
- ・ ほとんどの生徒が進学し、英語系の大学、短大、専門学校に進学する生徒も毎年複数名存在する。

《会計科》

- ・ 全員が日商簿記2級を受検。
- ・ 会計科全生徒のうち、約8割が就職。

《情報処理科》

- ・ 資格取得に力を入れており、就職と進学はおよそ半々。

商業科としての取組について

《インターンシップ》

- ・ 2年次に、入試休みの3日間（3月14～16日）を利用して、希望者のみ行う（部活動への支障が出ないように配慮）。
- ・ 流通経済科は、10月に2週間、全員参加で行う。

《模擬株式会社 TOMI SHOP》

- ・ 生徒たちが出資金を出し合い、地域企業等の協力のもと、学科・クラス単位で商品開発を行ったり、販売の企画・戦略を練るなどして、一般のお客様への販売実習を実施する。
- ・ 大まかな年間の流れとしては、5月に発足（創立総会）、8～9月に協力企業研修会、11月に販売実習、2月に定時株主総会、3月にe-Taxによる納税を行っている。
- ・ 平成27年度実績は、来客者数8,100人、売上1,600万円。
- ・ プランニング部（部活動）の部員が社長以下の幹部となり、生徒を中心として運営が行われる。

- ・ 協力企業（平成 27 年度は 41 社、地元企業、コンビニエンスストア等）を各クラスに割り振り、各クラス 2 ～ 3 社と契約して商品開発や販売計画を考える。
- ・ 販売実習時には、新聞に本格的な折込チラシ（別紙）が入る。
- ・ 税務署に法人税を納め、利益は出資者（生徒）への配当という名目で、設備や備品を購入する形で生徒に還元する。
- ・ 机上での学習の成果発表の場と位置付けているので、授業との更なる関連付けが今後の課題。

プロGRESSシート（別紙）を用いて自己評価をさせている

《課題研究》

- ・ 講座の種類は、各種調査研究（マーケティング）、時事問題、資格・検定、マルチメディア研究、国際事情等がある。
- ・ 国際経済科は 3 講座、他の学科は 6 講座。
- ・ 資格試験への対応は主に課題研究の時間で対応。

《その他の取り組み》

- ・ キャリアガイダンス
... 企業経営者を招聘し、経営上のアドバイスを受ける取組（年 3 ～ 4 回）や講演会（商業関連の話にとどまらず、人間性や国際性を高めるような内容）を実施。
- ・ 社会貢献
... 地元中学校に対して、富山商業高校の生徒が出前事業を行う（マナー講座等）。

進路について

- ・ 卒業後の進路は、4 年制大学進学、短大・専門学校進学、就職がそれぞれ約 3 分の 1 ずつ。就職者の約半数は製造業（再掲）。
- ・ 4 年制大学進学者のうち、例年 10 ～ 20 人が国公立大学へ進学。毎年センター試験を受験するのは 2 ～ 3 人。他は推薦等。
- ・ センター対策や推薦対策は基本的に個別指導。
- ・ 課外授業は原則実施しない（部活動優先）。1 月の 2 週間だけ 7 限目を設定し、資格・検定対策を実施。

その他

- ・ 資格・検定取得のホープは経理部の生徒。日々の部活動は運動部並みに厳しい。
- ・ プランニング部は TOMI SHOP の運営だけでなく、地元産業やイベントにも関わり、企画・プロデュースを行っている。（例：富山サンダーバーズ（BC リーグプロ野球））

感想・気付き等

- ・ 部活動で組織力を高め、TOMI SHOP で商業人としての実践力を鍛えるという 2 本柱を、割り切って実践されている印象があった。ただ、それぞれへの取り組みについては徹底されていて、常に改善を加えられていた。

富山県立福岡高等学校（普通科の取り組み）

1 日程等

日時	平成 28 年 2 月 26 日（金） 9：30 ～ 11：30		
訪問者	佐賀県立白石高等学校	指導教諭	本村 邦彦
	（ 同 ）	教諭	岩谷 祥史
	佐賀県立杵島商業高等学校	教諭	中村 桂子
	（ 同 ）	教諭	村上亜嫁子
	（ 同 ）	主事	永淵早貴子
	教育政策課県立高校再編整備推進室	企画主査	椋島 秀樹
対応者	富山県立福岡高等学校	校長	永井 衛 氏
	（ 同 ）	教頭	樋掛 恵美 氏
	（ 同 ）	教務部長	小路 忠則 氏
	（ 同 ）	総務部長	利田 右子 氏
	（ 同 ）	進路部長	山本 豊 氏
	（ 同 ）	英語科主任	出口奈津子 氏

2 学校概要

学科構成は普通科 3 学級。2 ～ 3 年次は英語コースを 1 学級設置。文理混合クラスは、生徒の文理及び教科選択によって 1 ～ 2 クラスを設置する（年度によって異なる）。全校生徒は 355 人（H27.5.1 現在）

1 年（共通クラス）				2 年				3 年			
	男	女	計		男	女	計		男	女	計
11HR	13	27	40	英語コース	10	28	38	英語コース	9	29	38
12HR	13	27	40	文理混合 1	16	25	41	文理混合	7	35	42
13HR	13	27	40	文理混合 2	15	25	40	理系	24	12	36
計	39	81	120	計	41	78	119	計	40	76	116
（男 120 、女 235） 合計 355											

卒業後の進路は、ほぼ 100%が上級学校へ進学。そのうちのほとんどは 4 年制大学へ進学する。

平成 27 年度入試においては、57 人（現役生のみ）が国公立 4 年生大学へ進学（生徒全体の約 50%）。

職員配置は、校長 1、教頭 2、教諭 24、養護教諭 1、実習教諭 1、事務職員 4、講師 6（非常勤講師含む）。英語コースの加配が 3 人。

地域の普通高校としては 4 ～ 5 番手。

勤続 10 数年の先生が比較的多くいらっしゃる。

3 取材等概要

クラス編成について

《文理混合クラス》

- ・ 成績別の、いわゆるグレードクラスではない。
- ・ 生徒の文理及び教科選択によって1～2クラスを設置する（再掲）。
- ・ 進路希望を重視して学級編成を行う。（例：医療系への進学を希望する生物選択者は、純粋理系クラスではなく文理混合クラスに在籍。看護学部希望者は一部を除いて文系に在籍。）
- ・ 展開授業が多く、模擬試験や課外授業の終了時刻がクラス内で異なる等の煩わしさはあるが、特にクラス経営に支障があるとは思わない。
- ・ クラスの一体感は行事等を利用して築いていくことができる。
- ・ 成績処理は文系・理系ともに一括して行う。

《英語コース》

- ・ 推薦入試で最大40%（16名）を取り、2年次から英語コースに在籍させる（1年次は共通クラス）。他の生徒は希望者。
- ・ 2年次から3年次にかけてのコース変更は不可。
- ・ 一般の文系と比較して、英語の単位数が3年次に2単位（英語探究）多い。
- ・ 英語コースの特徴的な取り組みとしては以下のとおり

英語セミナー

… 6～7名のALTと、1泊2日の研修を行う。研修中の会話はオールイングリッシュである。

英語スピーチコンテスト

… 英語コース2～3年生の代表によるコンテスト。校外のホールを借りて行われ、聴衆は全校生徒。成績上位者は県や全国のコンテストに出場。

小学校への英語サポート

… 7、12月に、近隣の福岡小学校で英語の授業サポートを行う。また8月には2～3の小学校の生徒を対象に英語教室を行う（高校生が教える）。

少人数授業

… 英語表現の授業は20人ほどの少人数クラスで実施。

《理系クラス》

- ・ 純粋理系クラスは物理・化学選択者。
- ・ 数学 まで全員必須。

英語教育について

《英検等》

- ・ 英語コースの生徒は3年終了時に、70%以上がGTEC（CBT）550点以上、英検2級取得を目標としている。今年度は74%の生徒が実現している。
- ・ 1年生全員に英検の受検を奨励。約70%が英検準2級を取得。
- ・ 1次試験合格者には、英語科教諭が放課後に面接指導を行う。

《授業》

- ・ 1年次は音読・会話を重視。
- ・ 2年次は記述力の強化。授業2時間に1回は60wordsの作文をさせ、グループ内で検討。
- ・ ALTが常駐1人+兼務1人であるため、少人数授業やチームティーチングが行いやすく、1人常駐であるため、生徒との会話の機会も増える。

《学校設定科目「英語探究」(英語コース3年次)》

- ・ 自宅学習による作文(記述) ディスカッション(会話) 再記述(記述)の繰り返し。
- ・ 模擬国連
... それぞれの国の代表となって、国際的援助を受けるためのプレゼンを競い合う。パワーポイントを作成して、英語で意見発表を実施し、質疑応答まで行う。

国際的興味の喚起と英語でのプレゼン力強化。

《英語講演会》

- ・ 英語や国際的事柄についての講演会を年3回実施(オールイングリッシュでの講演会を含む)。

《英国語学研修》

- ・ 3月の課業日に、3週間かけてイギリスの語学学校で研修を行う。例年25名程度が参加。
- ・ 個人負担は約50万円。同窓会から5万円程度を補助。
- ・ 英語のテスト、面接、また普段の生活態度、学習習慣の確立具合等によって参加者を選抜。

英語学習の動機づけになっている。

- ・ 英国研修で英語が通じなかった経験が、その後、努力の更なる上積みを生む。

その他学習での取組について

《FT(フクオカタイム)》

- ・ 毎日12:55~13:05に小テスト等を行う。(よって福岡高校の実質的な昼休み時間は35分間。)
1年生...英数国の小テスト+読書、コラム、1週間の振り返り
2年生...英数国理社の小テスト
- ・ 小テスト不合格者には、再テスト・課題などの事後指導を行う。
を受験するのは2~3人。他は推薦等。

《課外授業》

- ・ 早朝補習や土曜課外は実施しない。
- ・ 夏季休業中のみ実施。1~2年生は8月後半の7日間、3年生は7月後半の7日間と8月後半の10日間。
- ・ 土曜学習会として全12回の行事(英語セミナー等)を計画している。

その他

- ・ 家庭学習の徹底。週末の2日間をどう学習させるかを考える。課題が多いことで有名な学校であることは自覚している。
- ・ 教師側の理解としては、課題は8割程度、予習は6～8割ができており、授業の理解度としては7～8割だと考えている。常に100%を要求して生徒をがんじがらめにしているわけではない。
- ・ 生徒の学習だけでなく、教師の指導力向上は常に意識している。

感想・気付き等

- ・ 学級編成や学習指導等、学校のシステムとして確立されているという感じがした。学校としての目標を掲げ、結果を出し続けていれば、そのやり方に理解・共感を示した生徒（保護者）が集まってくるという好例であろう。
小規模校ゆえの人数的なハンデがないはずはないと思うが、福岡高校の先生方からそれに類する発言が聞かれることはなかった。
3学級でもこれだけの実績と特徴を打ち出すことができるという点で、白石高校にとってはよい刺激・参考になったと思われる。

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
 - 二 新高校の施設・設備に関すること
 - 三 新高校への円滑な移行に関すること
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

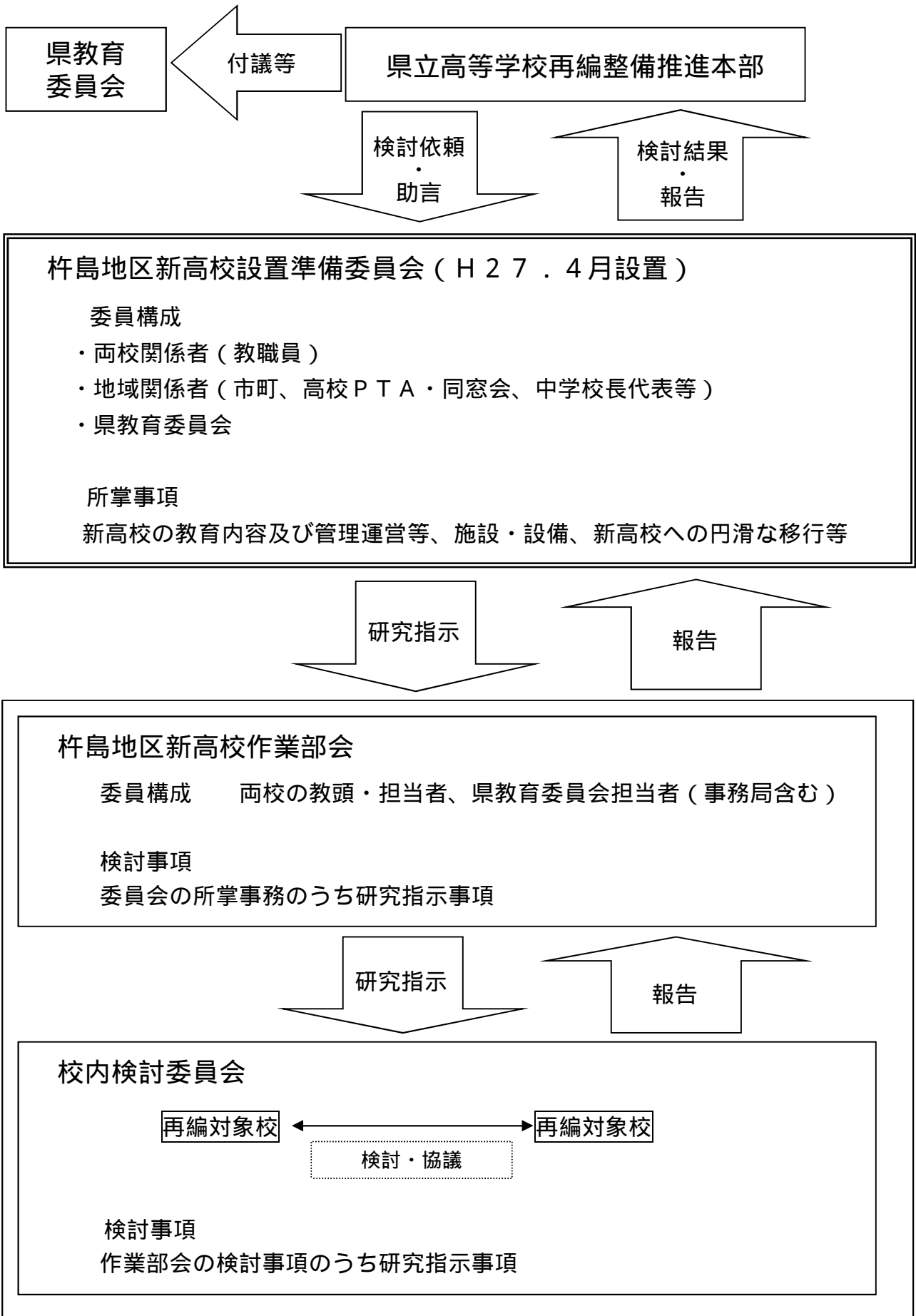
(補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料9 杵島地区新高校設置に向けた検討体制



資料 10 杵島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	白石高等学校学校校長	荒谷 弘幸	委員長・学校関係者			
2	杵島商業高等学校校長	木村 もと	副委員長・学校関係者			
3	白石高等学校教頭	本告 靖之	学校関係者			
4	杵島商業高等学校教頭	北島 直幸				
5	大町町教育長	前川 幸治	大町町	市町関係者		
6	大町町生活環境課長	小木 誠				
7	白石町教育長	北村 喜久次	白石町			
8	白石町副町長	百武 和義				
9	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市			
10	江北町教育長	赤坂 章	江北町			
11	白石高等学校 同窓会代表	川崎 光春	地元関係者			
12	杵島商業高等学校 同窓会代表	黒岩 勝弘				
13	白石高等学校 P T A代表	溝口 哲也				
14	杵島商業高等学校 P T A代表	田中 浩吉				
15	白石町立白石中学校校長	平川 年明	中学校関係者			
16	武雄市立川登中学校校長	植松 和彦				
17	教育政策課長	八谷 幸浩	県教委関係者			
18	教育情報課長	碓 浩一				
19	教職員課長	福地 昌平				
20	学校教育課長	松尾 敏実				
21	保健体育室長	三上 智一				
22	教育支援課長	源五郎丸 靖				
23	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章				
24	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	白石高等学校教諭	本村 邦彦				
		副島 博孝				
	杵島商業高等学校教諭	松浦 昌彦				
		中村 桂子				
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄				
県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹					